

# 仙台市各区のあゆみ [青葉区]



## ● 青葉区の概要

昭和20年の仙台空襲によって市街地のほとんどが焼失してしまいましたが、その後の戦災復興事業や都市計画事業により都市整備が急速に進み、多くの行政機関、金融機関、企業、商店が集中するようになりました。区域は都心から宮城地区がある山形県境まで北西方向に帯状に広がり、広瀬川の清流が区内を流れ、詩情豊かな仙台のイメージと市民懐いの水辺空間を創出しています。市の5区の中で、人口、面積とも最も大きく、近代的な都市機能と豊かな自然環境が共存する「多様性」が区の特徴ともなっています。

## ● 青葉区のあゆみ

- 昭和62年 1987年 宮城町を仙台市に編入
- 平成元年 1989年 仙台市の政令指定都市移行により青葉区誕生
- 平成2年 1990年 青年文化センター、新科学館開館(台原森林公園)
- 平成3年 1991年 仙台国際センター開館
- 平成11年 1999年 仙台文学館開館
- 平成13年 2001年 せんだいメディアテーク開館
- 第1回仙台国際音楽コンクール開催
- 平成15年 2003年 仙台城跡国史跡指定
- 平成27年 2015年 第3回国連防災世界会議開催



## 川内地区

平成元年1989年撮影  
(「伸びゆく宮城」河北新報社より)

写真左側下部の5角形の建物は、当時存在した宮城県スポーツセンター(現在の地下鉄東西線「国際センター駅」あたり)。その南側に1991年仙台国際センターが建設され、さらに2014年に建設された展示棟は、国連防災世界会議の会場となりました。

## 新たな指針 議論の地

仙台市は国連会議や学会の会場により、又は多くの国際会議や講演会の会場となることで有名です。宮城県の国際センターは、既に新設した展示棟と、既存の施設を改修して、国際会議用のショールームを、もじめずこのままのまま設けたものです。また、既存の施設を改修して、国際会議用の会場を一括的に利用することで、5000~6000人の人々が利用できる国際会議用の施設として、これまでにセミナー会場の1万2000平方㍍のホールや、展示室、会議室、休憩室、飲食室、宿泊施設などを併設した「コンベンションセンター」が完成し、会議を主催する企業や団体に向けたサービスを行っています。

学会など説教施設の拠点として、所は2014年開業した「国際センター駅」の北側に位置する宮城県の国際センターです。宮城県の国際センターは、既に新設した展示棟と、既存の施設を改修して、国際会議用の会場を一括的に利用することで、5000~6000人の人々が利用できる国際会議用の施設として、これまでにセミナー会場の1万2000平方㍍のホールや、展示室、会議室、休憩室、飲食室、宿泊施設などを併設した「コンベンションセンター」が完成し、会議を主催する企業や団体に向けたサービスを行っています。

**広瀬川沿い景観配慮**

広瀬川は、宮城県を南北に走る主要な河川で、市内では14キロメートルをかけて、複数の支流と一緒に走っています。この川は、古くから舟運の中心となっていましたが、現在では、その豊かな自然環境や歴史的背景を活かした観光資源として、多くの人々に愛されています。また、川沿いには、多くの公園や緑地があり、市民たちの憩いの場となっています。

**展示棟**

展示棟は、国際会議用の施設として、既存の施設を改修して、国際会議用の会場を一括的に利用することで、5000~6000人の人々が利用できる国際会議用の施設として、これまでにセミナー会場の1万2000平方㍍のホールや、展示室、会議室、休憩室、飲食室、宿泊施設などを併設した「コンベンションセンター」が完成し、会議を主催する企業や団体に向けたサービスを行っています。

平成27年 2015.3  
第3回  
国連防災世界会議開催  
(仙台国際センター)

●記事提供/河北新報社